



にいざ 歴民だより

平成28年 1月 (第15号)

発行：新座市立歴史民俗資料館
新座市片山 1-21-25
TEL:048-481-0177

2016
Happy New Year



2016年（平成28年）さる年

平成28年初めての『歴民だより』をお届けします。本年も『歴民だより』をよろしくお願ひします。今年は、申年。十二支（干支）の第9番目に当たります。「申」の意味は「伸ばす」で、「草木が十分に伸びきり、実が成熟して香りと味がそなわり固く殻におおわれていく時期」をいいます。

一方、申年生まれの方は、いるだけで自分も周りも、明るく楽しくすることができる人だそうです。

楽しいことが大好きで積極的に動けるおさるさんのような行動力を発揮して、元気よく楽しい伸び伸びとした2016年にしたいですね！

「文化の日特別講座」を開催しました。

昨年11月3日（火）に「文化の日特別講座」を開催しました。一昨年にも増して申込みが多く、35人の皆さんの参加があり、盛況！のなかで開催されました。

講師に大東文化大学教授・新座市教育委員の宮瀧交二先生をお招きして、松平伊豆守信綱の半生と野火止用水の開削の歴史を興味深い話を交えて、楽しく解説していただきました。

歴史講義の後は、女流講談師の神田山吹師匠による講談が行われました。宮瀧先生の軽妙洒脱なシナリオと神田師匠の力強い語り織りなす郷土ゆかりの「知恵伊豆」こと松平伊豆守信綱の活躍を描いた物語を一同楽しんでいました。あっという間の2時間でした。

講座の後、宮瀧交二先生と神田山吹師匠から、余談としてほかの話も聞くことができ、おもしろく、皆さんも帰るのを忘れて聞き入っていました。



「文化の日特別講座」の
歴史講義と講談の様様



市民文化財講座を開催しました！



「市民文化財講座」
の講義の様

1月23日（土）に「市民文化財講座 新座の地名とその由来～地名に秘められた物語～」を開催しました。

講師に地名研究に造詣が深い、志木市にお住まいの郷土史家・神山健吉先生をお招きして、新座各地区の名称の由来について、また、「地名」に隠された意外なエピソードを紹介いただきました。

身近なテーマで注目が高く、1月5日の申込み開始からわずか3日の内に定員に達し、その後も問い合わせが相次ぐほどの盛況ぶりでした。このことから、市民の郷土史に対する関心の高さがうかがわれます。

当日は、35の方が受講され、普段何気なく暮らしている地域に秘められた物語の数々に興味津々。皆さん熱心に講義に聴き入っている姿が印象的でした。

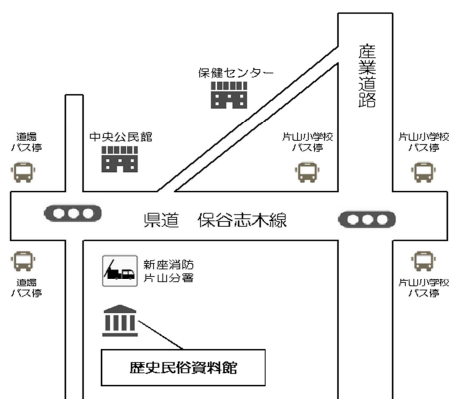
ふるさと新座の歴史・ひとくちメモ

市内には大小合わせて約35の坂があるとされており、その多くは住民の感情をそのまま表した愛称が多いようです。

街道脇にエノキの大木があるので榎木坂、観ざる言わざる聞かざるの三猿が彫られた庚申塔が立っていることから野猿坂。宮坂、八幡坂、白山坂、駒形坂など信仰にまつわるものもあります。

民俗・伝説なども反映しています。例えば、小字市場と呼ぶところに立つ市に土地の人達が荷物を運んだりして通った坂だったので市場坂など。また、坂の上に団子屋、坂の下に餅屋があったため、上から下ると団子坂、下から上がると餅屋坂と言い分けているものもあります。

栗原の坂、中野の坂、大和田の坂など、村名や小名をつけたものもあります。



◇ 歴史民俗資料館（略称：歴民）は、どこにあるか、何をするとおころか知っていますか？

- ① 歴民は、中央公民館の近くにあります。（左の略図のところです。）
- ② 歴民は、新座市の歴史、民俗、考古に関する資料の収集、保存等を行い、これら資料の展示等を行っています。

歴民は、月曜日、祝日及び年末年始を除く、午前9時から午後5時まで開いています。自分の住んでいるまちの歴史を見に来てみませんか。